

(表紙)

地域遺産・伊豆石の蔵 プロジェクト

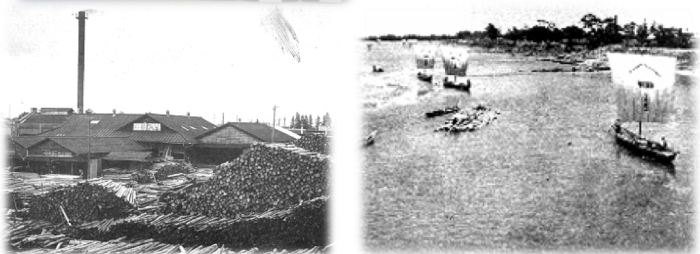
～伊豆石の蔵をハブにしたまちづくり＝天竜川 × 東海道 × 木工の町～



中野町を考える会

静岡県浜松市東区 中ノ町地区

「まち」の今と昔



- 東区中ノ町地区は昔から交通の要衝であり、「東海道」と「天竜川」の交差点として、天竜木材の集積地として栄えてきた。
- 「まち」は、戦後の社会構造の変化や木材産業の斜陽化に伴い、次第に活気は薄れ、高齢化や商店街の衰退などの課題を抱えている。

「まち」の転換点



- まちを横断する国道1号の橋の幅と天
 竜川を計画する新天竜川橋の幅は、工機
 事を迎えるに、断かされる新天竜川橋の幅は、要
 立ち上り、実現し、現在、
 望・実現し、現在、
 (1)安心して暮らせるまち
 (2)楽しく暮らせるまち
 (3)暮らしやすいまち
 3つをテーマにまちづくりを進めて
 いる。

まちづくりのハブ 「伊豆石の蔵」



- 現在、当会は、浜松市東区や磐田市などに多く残っている明治～昭和初期に建てられた「伊豆石の蔵」を活用したまちづくりを展開している。
- 天竜川の水運や掛塚からの海運、東海道の陸運など先人たちの営みが残してくれた宝物「伊豆石の蔵」は、今の時代でも、人と人をつなぐハブとして、さらに人が人を呼ぶまちづくりの輪が広がる場所になっている。

「伊豆石の蔵」が つなぐ、人と人・物



- 「伊豆石の蔵」を活用したまちづくり
 - (1) 蔵フェス
音楽や落語、芝居などのイベント
 - (2) なかのま市
マルシェと手作り品や野菜などの販売
 - (3) 木工の町
地域の木材加工事業者やデザイナー、
くりもの師が作り出す木材を使用した
商品の展示・販売や子供向けワーク
ショップ
- 各イベントは相互に共鳴し、人が人や物を呼び、より大きな幸せを生み出している。

循環するつながりと これからの「まち」



- のれ出いを
ものそりな業
な石、作え授
切豆どや見の
大伊れ史、で
に「け歴ど校
ちはだのな学
たれう域り小る。
もそそ地がはい
ど。もたな会て
子い物きつ当え
のたのでた、伝
代しそんきをて
世残」歩いて物し
次を蔵がし宝通
- 「伊人り康まく。
らわ健ない」
蔵循環、すり
のがら造く
石財が創づ
豆やなをち
が関・能て
なが事可け
し人仕続続
出な・持も
み々値なら
は様価んか
ら、なそれ
かした、こ
「環新るを